

聖路加国際病院 心療内科



専門研修プログラム

2010年4月1日版

診療内容・科の特色

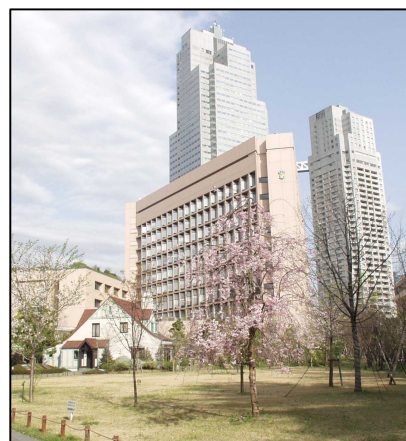
・当科は、総合病院内科のなかで心身医療を実践しています。日本心身医学会専門医および指導医が複数在籍する医療機関は全国的にも少なく、真の心身医学を学べる全国的にも貴重な場所となっています。身体面からの評価だけで診断に至らない患者に対して心身両面から総合的に評価することで治療につなげています。初期研修を終えた医師が各専門科に進むにあたり並行して心療内科を研修することも増えていて、それぞれの専門分野で心療内科の知識と技術を応用しています。それぞれの専門領域を極めたとき、やがて専門領域の知識で対応できない患者がでてきます。そういうときに役立つのが心療内科で得られる知識です。「こころのみえる内科医（他の科も含む）」という心療内科の理想に共鳴する研修医の先生方に広く門戸を開いています。

診療実績(年間)

- ・ 外来患者数： 7,600 人
- ・ 入院患者数： 40～70 人
- ・ 学会発表： 国内学会 6 件 国際学会 1 件
- ・ 学術論文： 2 件

施設認定

- ・ 日本心身医学会
- ・ 日本心身医学会研修指定施設



専門研修医応募資格

- ・ 前期研修修了もしくは修了予定者。

取得(受験資格)可能な認定医、専門医等

日本心身医学会認定 心身医療科専門医

基本的な応募必要条件 学会 HP 参照 <http://www.interq.or.jp/japan/shinshin/>

心療内科専門研修プログラム

・ G10

心療内科専門医としての診療を実践するために、内科の総合的臨床能力を基礎とした心療内科の初期専門能力を習得する。日本心身医学会の認定専門医師件が受験可能な知識と技能を修得する。

・ SBO

1. 指導医の指導のもとで心身症患者の最終診療責任者になれる実力を習得する。
2. 研修医を教育、指導することが出来る。
3. 臨床研究の実践と報告（学会発表、論文投稿）ができる。
4. 心身症およびその周辺疾患についての診断面接、病歴聴取、身体診察、診断、治療を適切に行うことが出来る。
5. 精神病圏の病態の鑑別が出来る。
6. 生物・心理・社会面から総合的に患者を診察することが出来る。
7. 病態評価、診断、治療計画、生活指導、投薬を正しく行うことが出来る。

・ LS（OJT、勉強会、学術活動）

外来では、初診患者を2～3名程度受け持ち、病態評価、診断、治療計画、生活指導、投薬などを行う。専門研修医が診察の後、指導医が診察を行い、治療方針及び病態評価の確認を行う。外来終了時に受け持っている新患、再診患者のレビューを行う。外来では各種心身症、うつ病、パニック障害、身体表現性障害、摂食障害、精神病圏の疾患を経験する。治療の手段として、各種向精神薬を中心とした薬物治療、自律訓練法、一般心理療法、生活指導の方法、インテイク面接などを学ぶ。病棟では当科入院患者の診療に加えて全科から紹介される入院患者のコンサルテーション事例を経験する。さらに研修医を教育、指導する。

・ EV（評価）

- ・ 具体的経験目標（研修目標）：うつ病、パニック障害、の診断、治療ができる。身体表現性障害、各種心身症患者の診断、病態理解ができる。精神病圏の患者の鑑別が出来る。
- ・ 具体的研修内容（研修期間）：1ヶ月～数ヶ月間（希望により年単位の研修も可）

・ 研修実績

研修医 A	外来初診患者 33 件/月 入院コンサルト 14 件/月	学会発表 1 回 (第 115 回日本心身医学会関東地方会)
研修医 B	外来初診患者 33 件/月×3 ヶ月 入院コンサルト 14 件/月×3 ヶ月	学会発表 1 回 (第 116 回日本心身医学会関東地方会)

勤務例

曜日	午 前	午 後	当直・オンコール
月	回診、外来	外来、回診	なし
火	回診、外来	カンファレンス、外来、回診	なし
水	回診、病棟	外来、回診	なし
木	回診、外来	カンファレンス、外来、回診	なし
金	回診、外来	外来、回診	なし
土	病棟、回診		
日			